

宮古市再生可能エネルギーゾーニング（素案）に対する
パブリック・コメントの実施結果について

- 1 実施期間 令和5年8月1日（火）から令和5年10月31日（火）まで
- 2 実施方法 閲覧場所に備え付けの提言箱への投函、郵送、FAX、電子メール、持参
- 3 意見提出件数 3通
- 4 意見概要と回答 以下のとおり。
 ※ご意見は、意見の趣旨を損なわない程度に要約しました。
 ※固有名詞などで個人名などが特定される記載や情報については、公表を差し控えます。

No.	意見概要	回答等
1	<p>岩手県は、全国の中でも優位な再生可能エネルギーの豊富な地域資源を有する県であり、とりわけ風力エネルギーの賦存量がありながら、これまで十分な活用ができていない。その理由は、民間からの投資を呼び込むことや産業誘致が課題だった。</p> <p>今まさに、温暖化対策と経済振興の両輪を回していくことが、山村地域の活性化につながるものだと考える。</p> <p>希少動植物を理由に風力発電事業に反対する声を報道等で耳にするが、反対するのであれば、地域活性化に資する代替案を提示すべきだと考える。</p>	—
	<p>今回公開されたゾーニングマップは、これまでに岩手県が公表した内容とは異なり、保安林や農用地区域を一律に除外しない内容となっており、より現実的な内容であり、支持したい。</p> <p>災害を誘発するような事業は行うべきではないと考えるが、今後、再生可能エネルギーをより多く導入していくために、今回作成するゾーニングマップに基づき、今まで以上に積極的な事業者の参入、宮古市の誘致、協力、参画に期待する。</p>	—
2	<p>宮古市に隣接する市町村が区域外となっているが、例えば風力発電の場合は、行政区界となる山尾根が適地になるケースもあることから、宮古市外についても【参考情報】として、そのポテンシャルを表示することで、事業者の導入検討をより促進できると考える。</p>	<p>隣接する他市町村との調整が必要となるため、宮古市外の情報は公開しない予定です。</p>

	<p>陸上風力発電の促進エリアの条件設定のうち、最大傾斜角 20 度未満との設定がされているが、林野庁が定める保安林解除マニュアルでは、傾斜角度が 25 度未満であることが条件となっている。</p> <p>今後、保安林を対象とした事業検討が進んでいく中、保安林解除の手続き協議において、20 度～25 度の場所では、「市が適地としていない場所である」と判断され、協議が著しく困難になる恐れがあるため、国に準じて 25 度未満としてほしい。</p>	<p>環境省のポテンシャル調査の事例を参考に最大傾斜角 20 度未満の条件を設定しています。主に山間地の保全を目的としており、保安林の解除のために設定している条件ではないことから、最大傾斜角 20 度未満としました。</p>
	<p>図郭 28（サドクガ森）付近が保全エリアに設定されている理由を示してほしい。</p> <p>なお、上記理由がカモシカ保全地域ではないかと推察するが、当該保全計画の性質上、規制をする内容ではないと考えるため、調整エリアでよいと思う。</p> <p>市の見解を教えていただくか、調整エリアへの変更を検討してほしい。</p>	<p>当該区域は、カモシカの捕獲を規制するものであり、施設整備等を規制するものではないことから、保全エリアから外しました。しかし、カモシカは天然記念物に指定されており、当該地域で保全される必要があることから、カモシカへの影響を留意すべき区域として、留意事項という位置づけで整理しました。</p>
	<p>陸上風力発電の促進エリア内に、谷や沢が適地とされている箇所が複数見受けられる。</p> <p>実際の事業化検討では除外すべき区域であることから、ゾーニングマップの正確性を向上させるために、このような場所を促進エリアから除外するよう検討してほしい。</p>	<p>当ゾーニングマップによるエリア分布は、市全域にかけて広域的な視覚表現をする必要があることから、1a（10m×10m）を最小単位としています。そのため、表現が難しい谷や沢は促進エリアからは除外していません。河川（本流のみ）、三陸沿岸道路、鉄道敷地及び把握済みの既存のメガソーラーの敷地については、ゾーニングの対象外とするよう見直しました。</p>
3	<p>エネルギーの効率的な使用は地域脱炭素の鍵だと考える。</p> <p>宮古市は、公共施設や交通インフラなどにエネルギー効率を向上させるためのプログラムを検討してほしい。</p>	<p>今後の取り組みの参考とします。</p>
	<p>交通は温室効果ガスの排出に大きな影響を与えるため、自転車専用道路の整備、公共交通機関の改善、電動車の普及など、持続可能な交通手段を促進する取組を進めてほしい。</p>	<p>今後の取り組みの参考とします。</p>
	<p>電動車の普及のために、20kWh 急速充電器の普及と、普及期に達するまでの充電無料化を進めてほしい。</p>	<p>今後の取り組みの参考とします。</p>
	<p>脱炭素化への成功は、地元コミュニティと住民の</p>	<p>今後の取り組みの参考とします。</p>

	協力が不可欠であり、教育プログラム、ワークショップ、イベント等を通じて住民の意識を高め、参加を奨励する取組が多く必要と考える。	
	再生可能エネルギー源を活用し、市のエネルギー需要をカバーするための計画を具体的に進めるべきと考える。	今後の取り組みの参考とします。